

第8回環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門・環境活動レポート部門） 採点基準の基本的考え方

環境コミュニケーション大賞
ワーキンググループ委員会

1. この採点基準は、応募作品の第1次選考にのみ用いるもので、本審査委員会では、審査員の識見に基づき審査される。

2. 「募集のご案内」で発表されている、「賞の種類」「選考基準」を実際の環境報告書を分析する場合の詳細項目として採点基準の項目を作成している。

記載項目については、内外の各種ガイドライン等も参考に網羅的に項目を整理した**環境省作成の環境報告書ガイドライン**に沿って作成している。その他に、「賞の種類」「選考基準」に記された事項、例えば「コミュニケーションツールとしての工夫」とか「独自の創意工夫」を評価する項目を追加している。更に、本年度は「持続可能な発展への取組」項目について、2年目にもなるので報告書の進展度を考慮して改定した。

作業用シートなので並べ方は作業のやり易さを第一義に考えてある。参考までに募集の案内およびガイドラインと同じく環境省作成の環境パフォーマンス指標のウェブサイトは下記のとおり。

募集要項 < <http://www.gef.or.jp/eco-com/8thyoko.pdf> >

環境報告書ガイドライン < <http://www.env.go.jp/policy/report/h15-05/all.pdf> >

環境パフォーマンス指標 < <http://www.env.go.jp/policy/report/h15-01/all.pdf> >

3. 応募締め切り（10月15日）から審査委員会、表彰式までの時間的制約の中で、できるかぎり客観的かつ公平に評価するため、すべての項目を4段階評価（行動計画は3段階評価）する形式とした。4段階の基本的な区分は次のようにした。

[3] 大変すぐれている

[2] 普通

[1] 劣っている

[0] 記述なし

これだけでは、実際には採点が不可能なので、各項目につき「**例示的**」に具体的水準を記述した。したがって、あくまで例示的な記述なので、記述の「文字通り」の採点をするわけではない。「例示」はあくまでも、レベル推定のための記述である。また、大賞が環境大臣賞なので各項目の評価については上記の環境省作成環境報告書ガイドラインを基本に用いることとしている。

4. 項目の配点については、「賞の種類」「選考基準」を基礎に、内外の配点例等も参考に専門家集団の討議で決定している。絶対的基準がないだけに異論は当然ありうるし、また、時の経過とともに変化していくものである。あくまで本年度の配点であり、当然のことながら次年度以降は変更もありうるものである。

5. 項目毎の「重み付け」も考え方は上記と同様である。

6. 以上のように、できる限り客観的評価の仕組を前提にし、最後に専門家としての総合評点を加味して評価する採点基準となっている。

7. 持続可能性報告について

環境報告書として優れたものと判断されたものの内、持続可能性報告書と考えられるものについて、別途、採点をおこなうようシートを作成した。

第8回 環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門 (合計100点)				
1) 基礎的項目 MAX: 16点	経営者コミットメント		(6点)	
	サステナビリティの認識		(5点)	
	報告対象組織バウンダリー		(2点)	
	会社概要		(2点)	
	報告対象期間・発行年月		(1点)	
2) 環境マネジメントシステムに関わる内容 MAX: 6点	方針・目的		(1点)	
	組織・体制		(1点)	
	監査		(1点)	
	継続的改善		(1点)	
	緊急時対応		(1点)	
	教育		(1点)	
3) 環境パフォーマンスに関わる内容 MAX: 40点	3-1 全般	MAX: 12点	3-1 全般 MAX: 12点	
	3-2 個別指標1		3-2 個別指標1	
	3-2-1 製造業		3-2-2 非製造業	
		MAX: 15点		MAX: 10点
	3-3 個別指標2		3-3 個別指標2	
		MAX: 13点	3-3-2 非製造業	
			MAX: 18点	
4) その他の事項 MAX: 9点	環境会計・環境効率		(4点)	
	環境に関しマイナスとなりうる情報 (苦情・事故・訴訟等)		(3点)	
	支店、サイト等に関する情報		(2点)	
5) コミュニケーション MAX: 10点	コミュニケーションの工夫		(2点)	
	信頼性担保の工夫		(2点)	
	理解しやすさの工夫		(2点)	
	比較容易性の工夫		(2点)	
	検証可能性の工夫		(2点)	
6) 社会貢献その他の取組 MAX: 9点	その他社会性項目(社会、労働、人権、等)		(3点)	
	社会貢献への取組		(3点)	
	パートナーシップ形成への取組		(3点)	
7) 総合評価 MAX: 10点	上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。			

第8回 環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門/サイトレポート(合計100点)			
1) 基礎的項目 MAX: 13点	サイト責任者のコミットメント		(5点)
	企業全体の方針との整合性		(3点)
	サイト概要		(3点)
	報告対象範囲・報告対象期間・発行年月		(2点)
2) 環境マネジメントシステムに関わる内容 MAX: 10点	組織・体制		(2点)
	監査		(2点)
	継続的改善		(2点)
	緊急時対応		(2点)
	教育		(2点)
3) 環境パフォーマンスに関わる内容 MAX: 40点	3-1 全般	MAX: 8点	3-1 全般 MAX: 8点
	3-2 個別指標1		3-2 個別指標1
	3-2-1 製造業		3-2-2 非製造業
		MAX: 22点	MAX: 10点
	3-3 個別指標2		3-3 個別指標2
	3-3-1 製造業	MAX: 10点	3-3-2 非製造業
		MAX: 22点	
4) 社会貢献その他の地域社会との かかわり MAX: 15点	社会貢献への取組		(6点)
	地域社会とのパートナーシップ形成への取組		(6点)
	その他社会性項目(雇用、人権、等)		(3点)
5) コミュニケーション MAX: 6点	コミュニケーションの工夫		(2点)
	信頼性担保の工夫		(1点)
	理解しやすさの工夫		(1点)
	比較容易性の工夫		(1点)
	検証可能性の工夫		(1点)
6) その他の事項 MAX: 6点	環境会計・環境効率		(3点)
	環境に関しマイナスとなりうる情報(苦情・事故・訴訟等)		(3点)
7) 総合評価 MAX: 10点	上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。		

第8回環境コミュニケーション大賞 環境報告書部門 持続可能性報告(100点)		
1) 経営者コミットメントと仕組み MAX:30点	経営責任者のコミットメント (10点) サステナビリティの認識 (10点) CSR マネジメント体制の構築等 (10点)	
2) 社会・経済性側面に関わる内容 MAX:50点	社会的側面 (計40点) 雇用・労働 (7点) 人権(人権保護、ILO重点4分野、等々) (7点) 地域社会・公正取引 (7点) 製品責任・顧客満足 (7点) その他の社会性項目 (5点) その他(社会貢献への取組、受賞歴や、自ら運用する年金のSRI取組、等) (7点) 経済的側面 (計10点) 財務報告を超えた経済的側面の開示、および指標等についての工夫等 (10点)	
3) ステークホルダー・コミュニケーション MAX:10点	ステークホルダー・コミュニケーションへの取組 (10点)	
4) 総合評価 MAX:10点	上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。	

第8回環境コミュニケーション大賞 環境活動レポート部門/旧 EA21(合計100点)	
1) 事業活動の概要 MAX: 10点	事業者名 (2点) 所在地 (2点) 環境担当者と連絡先 (2点) 事業内容の紹介 (2点) 事業規模 (2点)
2) 環境負荷の低減 MAX: 45点 2-1 全般 (各 5点) MAX: 15点 2-2 環境負荷項目 MAX: 30点	評価項目の選択 目標に対応した取組み 目標と取組み 以下の項目については次の基準 二酸化炭素排出量 (10点) 産業廃棄物(非製造業では一般廃棄物) (10点) 事業特性に応じた取組み (各 5点) MAX: 10点 ・資源利用量 ・大気汚染物質排出量 ・水質汚濁物質排出量 ・化学物質の排出量・移動量 ・その他の一般廃棄物 ・その他
3) 環境保全に向けた取組み (各6点) MAX: 30点	環境方針 (6点) 組織・体制 (6点) 監査・点検 (6点) グリーン調達 (6点) その他の取組み (6点)
4) コミュニケーションツールとしての工夫 MAX: 5点	
5) (環境以外での) 持続可能な発展への取組 MAX: 5点	
6) 総合評価 MAX: 5点	上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。

第8回 環境コミュニケーション大賞 環境活動レポート部門 新 EA21(合計100点)		
1)事業活動の概要 (各2点)	事業者名 所在地 環境担当者と連絡先 事業内容の紹介 事業規模	
MAX:10点		
2)環境マネジメントシステム	環境方針 環境目標とその実績 組織・体制 監査・点検	
MAX:20点		
3)環境負荷の低減	3-1 全般 (各5点) MAX:10点 評価項目の選択 目標と取組み	3-2 環境負荷項目 MAX:30点 温室効果ガス等の大気への排出量 及びその低減対策 (10点) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及 びその低減対策(非製造業では一般廃棄物) (10点) 事業特性に応じた取組み (各5点) MAX:10点 ・総エネルギー投入量及びその低減対策 ・総物質投入量及びその低減対策 ・水資源投入量及びその低減対策 ・化学物質排出量・移動量及びその低減 対策 ・総製品生産量又は販売量 ・総排水量及びその低減対策 ・輸送にかかわる環境負荷の状況及びその 低減対策 ・その他
MAX:40点		
4)その他の環境取組	製品設計での環境配慮 (3点) リサイクル、回収、資源再利用の取り組み等 (3点) グリーン調達 (2点) その他の取組み (2点)	
MAX:10点		
5)コミュニケーションの工夫	コミュニケーション・ツールとしての工夫 (5点) 地域社会との協調 (5点)	
MAX:10点		
6)総合評価	上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も 考慮し、総合評価する。	
MAX:10点		

以上